

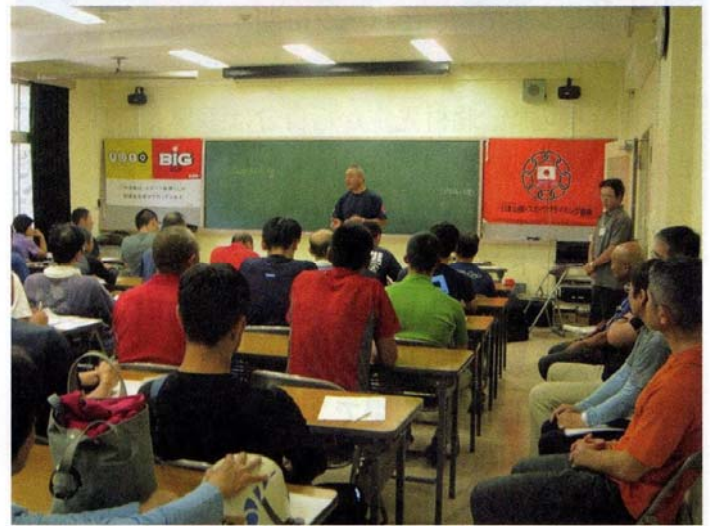
今年の無雪期レスキュー講習会は9月8日(金)～10日(日)富山の国立登山研修所にて開催された。

受講者44名、スタッフ16名の合計60名の参加であった。3日間天候にも恵まれ、事故もなく今回も無事講習会を終了することができた。

8日(金)12:30受付開始、13:00より開講式が行われた。挨拶とオリエンテーションの後、昨年度の山岳事故統計や那須での雪崩事故をはじめ、主な事故事例や事故の傾向について町田より報告を行った。その後は各クラスに分かれそれぞれの主任講師を中心に講習が行われた。

縦走ハイキングは瀬藤主任講師が担当した。運動生理学をはじめ、山でのファーストエイドや補助ロープによる悪場の通過、ツェルトの張り方や搬送法等内容は盛りだくさんである。講習は現場での事故を想定した実践的な内容となっており受講者の評判も上々であった。

クライミングレスキューに関しては従来2クラスであったが、今回は新たに基本コースとして1クラス増設、ABCの3クラス編成とした。基本コースのクラスAは松本(埼玉)主任講師が担当した。基本コースではロッククライミング中に発生しうる事故パターンの説明から、事故に対応するために最低限必要なデバイスやロープの結索について学習した。また、実際リーダーの墜落を体験していただくため約60kgのダミーを使った確保の実践も行った。昨年までの講習では岩場で発生する事故の概念を充分理解している方を対象としてきたが、中にはフリクションノット等レスキューでよく使われる基本技術につて習得していないまま参加される方も散見された。こういった方々への対応として今回新たに基本クラスを設けた次第であ



開講式

る。受講者からは理屈に則った内容であり、それぞれの技術がなぜ必要なのかがよく理解できたとのコメントを頂いた。

クラスBについては石田主任講師が担当した。例年通り、必要とされる個々のレスキュー技術の確認から、最終的にはそれらを組み立てた一連の流れについて学習した。また、クラスA同様ダミーによる墜落体験を実施した。墜落体験は大変好評であったが全員が終了するのに2時間ほどかかるため時間配分について今後は工夫が必要であろう。

クラスCは一本松主任講師が担当した。ここではクラスBに加え、より実践的なレスキュー技術について講習を行った。現場に居合わせた他のグループも加わってのコンパニオンレスキューとして、岩壁でのけが人を複数の人間によって降ろす操作までを学習した。今回は、岩場の救助に不慣れな消防士の方にも参加していただき、岩場における実際の事故について理解を深めていただいた。

ワークレスキューについては角田主任講師が担当



岩壁救助講習の会習期



熱心に講義を受ける講習生